岩手席書連盟特別展

北流遺墨展と東天書道会寄贈作品展示

日時　平成 24 年 8 月 9 日（木）初日 13：00 より開場
～8 月 12 日(日) 最終日 15：00 迄
10 日・11 日は　10：00～17：00
場所　市観光文化交流センター2F ギャラリーおでって
盛岡市中ノ橋通 1-1-10　TEL 019-653-4417
主催
〒020-0887 盛岡市上ノ橋町 1-50　岩織ビル 4-1
TEL/FAX　019-624-4746
岩手席書連盟・宮部書道会代表　宮部北空

宮部北流

<略歴>

- 1918 年（大正 7 年）岩手県盛岡市生まれ
- 1988 年岩手席書連盟会長就任
- 1989 年いわて書き初め大会開催
- 1994 年北流会社中展を銀座で開催
- 1997 年みちのく発進全国書道展を創設
  - 東洋書道芸術学会副会長
  - 東洋書芸展審査員
  - 全国書教研連盟顧問
  - 華道小原流家元教授
  - 岩手席書連盟代表
  - 北流会代表

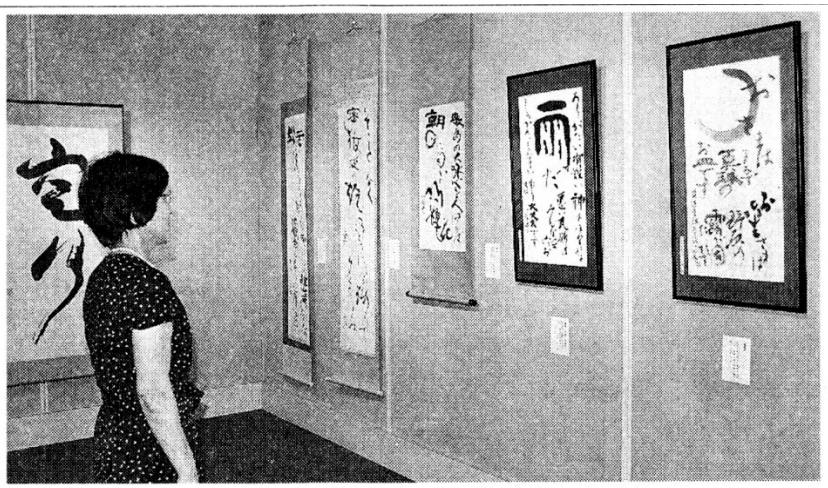
  等を歴任
- 2010 年 7 月 3 日 93 歳にて永眠

岩手日報　掲載記事

個性豊かな書が魅了

盛岡 岩手席書連盟が特別展

書道指導者らで組織で、盛岡市中ノ橋通1する岩手席書連盟（宮丁目のプラザおでって部北空代表）は12日まで特別展を開いてい



宮部北流さんの遺墨などが並ぶ岩手席書連盟特別展

る。

同連盟代表などを務めた書家、故宮部北流さんのりんとした遺墨29点が並ぶ。石川啄木ら本県ゆかりの人物の作品を個性豊かに表現した書が、来場者を魅了している。

3月に開かれた第14回みちのく発信全国書道展で東天書道会（青森県、佐々木東天代表）から寄贈された20作品も展示。「大丈夫」「築く未来」など、青森県の子どもたちが書に込めた被災地への思いが伝わってくる。

東京都世田谷区の書家渡部華流（かりゅう）さん(65)は「約40年、北流先生から書を学んだ。一堂に会した書を見て感動した」と喜んでいた。

午前10時～午後5時（最終日は同3時）。入場無料。

平成 24 年 8 月 9 日～12 日迄宮部北流 3 回忌記念として岩手席書連盟特別展（北流遺墨展）を開催いたしました。併せて青森県東天書道会より寄贈された震災復興祈念半切軸装作品 20 点も展示いたしました。

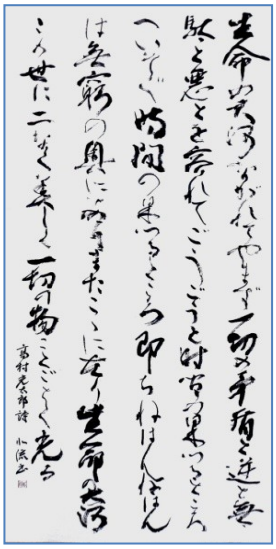
今回展は、会場を正式に確保できたのが 7 月上旬で準備期間が約 1 ヶ月しかなく、北流作品の借り受け手配や、実際の受け取り等、通常とは違った業務も行いました。

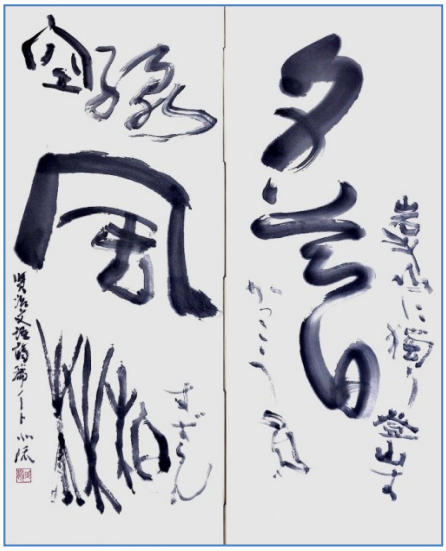
会場で聞いた声では、北流の書に囲まれて心が安らぐとのうれしい言葉でした。またある方は、北流の書は他の会派にはない表現がなされ見て感じることが出来るとおっしゃいました。一筆一筆の線質が非常に鍛錬されたもので、そうそう簡単にはまねできないものだとも言われました。また高村光太郎の詩集生命の大河から「放射能の克服と・・・」の北流作品を所有している方から、北流先生はなぜこの部分を切り取って書かれたのだろうか、非常にタイムリーで昭和 31 年に高村光太郎は現在の放射能に苦しむ日本を見通していたのだろうかとも言われました。書き手は没しても作品は残り、また違う歴史を歩んでゆくものだと感じます。

北流遺墨展出品目録

No	出　典	釈　　文	作品サイズ
1	石川啄木	世のはじめ まず森ありて 半神の人 そが中に 火や 守りけむ	扇子
2	禅語	啐啄同時	全紙
3	宮澤賢治	春と修羅　いかりのにがさ又青さおれは一人の修羅なのだ修羅のなみだは土にふる	全紙
4	宮澤賢治	お月さまはまるで真珠のお皿です　お星さまは野原の露が固まったようです	半切 1/2
5	宮澤賢治	はしむっけのやみのながから音がしてちゃがちゃが馬こは汗たらしてくる	半切 1/2
6	宮澤賢治	ありがたい有難い神はほめられよ　雨だ悪い瓦斯はみんな溶けろ　しつかりしなさいもう大丈夫です（春と修羅　真空溶媒より）	半切 1/2
7	宮澤賢治	鬼越の山の麓の谷川に瑪瑙のかけらひろい来ぬ	半切 1/2
8A	宮澤賢治	鳥の声があんまりやかましいので一郎は眼をさましたもうすっかり夜はあけていたんです（ひかりの素足　山小屋より）	半切 1/3
8B	宮澤賢治	土間のまん中では榾（ほだ）が赤く燃えていました　その煙はいろいろな形になってついついと日光の棒の中を通って行くのでした	半切 1/3
9	宮澤賢治	岩手山に独リ登山す　夕暮日　かっこう鳥　空線　風　すずらん　柏林	屏風
10	石川啄木	すずしげに飾りたてたる硝子屋の前にながめし夏の夜の月（一握の砂より）	半切 1/2
11	石川啄木	東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれて蟹とたわむる	半切 1/3
12	高村光太郎	生命の大河流れてやまず・・・・	全紙
13	宮澤賢治	鹿踊	全紙 1/2
14	本居宣長	敷島の大和心を人問はば朝日に匂ふ山桜花	半切 1/2
15	源義家古事	愛馬石繋	全紙
16	石川啄木	ふるさとの山に向かひて言ふことなしふるさとの山はありがたきかな	全紙
17	石川啄木	春の雪 銀座の裏の三階の煉瓦造りにやはらかに降る	半切 1/2
18	島崎藤村	名も知らぬ遠き島より流れよる椰子の實一つ　故郷の岸をはなれて汝はそも波に幾月	半切 1/4
19	宮澤賢治	風よたのしいおまえのことばをもっとはっきりこの人たちに言ってくれ	色紙
20	史記楽書	天馬	全紙
20	史記楽書	空行	全紙
21	破体碑亭	寿長	半切 1/2
22	舞楽源氏物語	青海波	半切 1/3
23	石川啄木	そことなく蜜柑の皮の焼くるごときにほひ残りて夕となりぬ	半切
24	石川啄木	砂山の砂に腹這ひ　初恋の いたみを遠くおもひ出づる日	全紙 1.5 枚
25	石川啄木	今日ひょいと山が恋しくて山に来ぬ　去年腰掛し石をさがすかな	歌碑
26	宮澤賢治	きみにならびて 野に立てば 風きららかに 吹ききたり 柏林を とどろかし枯れ葉を雪に まろばしぬ	歌碑
27	宮澤賢治	鉛の雲が湧きまた翔け南につゞく種山ヶ原のなだらは渦巻くひかりの霧でいっぱい	半切

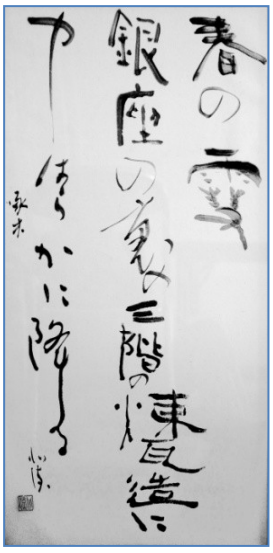
遺墨展借り受け作品





※ 全紙一枚半

※ 全紙1／2



※ 半切1／2